

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)株式会社 北環産業廃棄物	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.4 / 5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.8 / 5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.6 / 5		がんばろう
4 高齢社会への対応	1.0 / 5		がんばろう
[*] 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 ふつう 3 点以上 がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.4	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.8	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.4 スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.9	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.7	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.7	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3 スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均 1.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 1	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.74 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: - 0.67 外構緑化指数 4.52 % 建物緑化指数 0 %	
<自由記述>			

:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

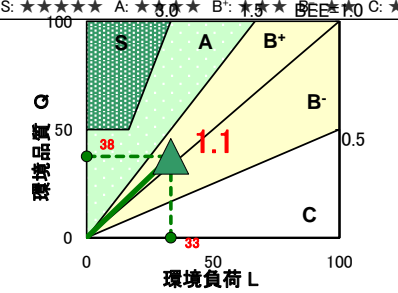
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社北環産業廃棄物中間処理施設 新築工事	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市若松区向洋町40番	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(市街化区域)	平均居住人員	10人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年10月4日
敷地面積	36,029 m ²	作成者	尾上 透
建築面積	2,807 m ²	確認日	2019年10月4日
延床面積	3,278 m ²	確認者	尾上 透



シートの保護を解除してください

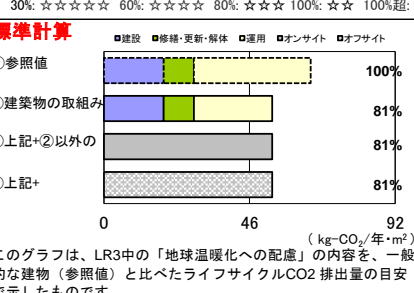
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★



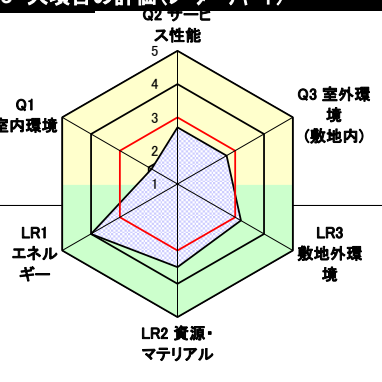
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

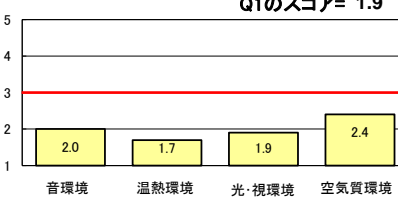


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

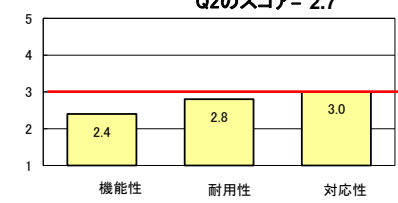
Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.9



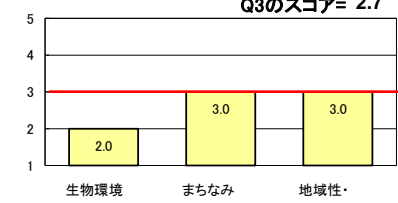
Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7



Q3 室外環境(敷地内)

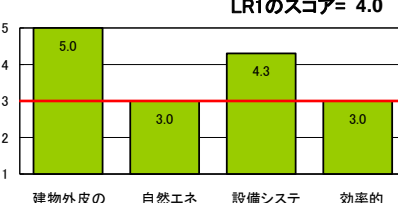
Q3のスコア = 2.7



LR のスコア = 3.6

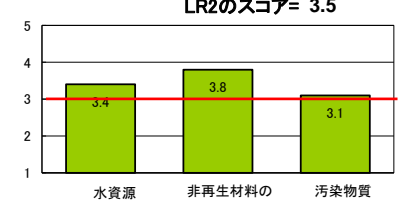
LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0



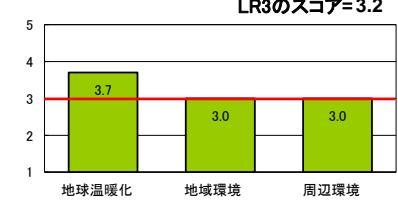
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5



LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
リサイクル材の積極的採用。		
Q1 室内環境 外壁面・屋根面等に断熱材を採用。	Q2 サービス性能 空調・給排水配管に2種類以上(B以上)を採用。	Q3 室外環境(敷地内) 外構において、出来る限りの植栽を設けた。
LR1 エネルギー 高効率熱源機器・LEDの採用・必要部位に断熱材の採用等によるCO ₂ の削減。	LR2 資源・マテリアル F☆☆☆☆・節水器具・リサイクル資材を3品目採用によるCO ₂ の削減。	LR3 敷地外環境 照明設備においてLEDの採用によるCO ₂ の削減。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)株式会社北環産業廃棄物中間処理施設 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							0.31			1.9
1 音環境						2.0	0.15			2.0
1.1 室内騒音レベル						1.0	0.40	3.0		
1.2 遮音						2.6	0.40			
1 開口部遮音性能						3.0	0.60			
2 界壁遮音性能						2.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音						3.0	0.20			
2 温熱環境						1.7	0.35			1.7
2.1 室温制御						2.5	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 外皮性能						1.0	0.25			
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38			
2.2 湿度制御						1.0	0.20			
2.3 空調方式						1.0	0.30			
3 光・視環境						1.9	0.25			1.9
3.1 昼光利用						3.0	0.30			
1 昼光率						3.0	0.60	3.0		
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						3.0	0.40			
3.2 グレア対策						1.0	0.30			
1 昼光制御						1.0	1.00			
3.3 照度						3.0	0.15			
3.4 照明制御						1.0	0.25			
4 空気質環境						2.4	0.25			2.4
4.1 発生源対策						3.0	0.50			
1 化学汚染物質						3.0	1.00			
4.2 換気						1.6	0.30			
1 換気量						1.0	0.33			
2 自然換気性能						3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33			
4.3 運用管理						2.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						1.0	0.50			
2 喫煙の制御						3.0	0.50			
Q2 サービス性能							0.30			2.7
1 機能性						2.4	0.40			2.4
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40			
1 広さ・収納性						3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33			
3 バリアフリー計画						1.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		天井高さ2.70m				2.6	0.30			
1 広さ感・景観						4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33			
3 内装計画						1.0	0.33			
1.3 維持管理						2.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						2.8	0.30			2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にB以上を採用。				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						1.8	0.20			
1 空調・換気設備						1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						1.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						2.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高が3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		必要部位(外壁部分)に断熱材を採用。	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.67	4.3	0.50	-	-	4.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	
4.1	モニタリング				-	-	
4.2	運用管理体制				-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器・小便器・節水コマの採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生加熱アスファルト混合物、陶磁器質タイル、ビニル系床材	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材・内装材と設備等が容易に分離可能。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.1	0.20	-	-	3.1
3.1 有害物質を含まない材料の使用		F☆☆☆☆の採用。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.3	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		照明設備においてLEDを採用しCO2の削減。	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	